村上裕（松山工高）ジュニア頂点

全日本シクロクロス

男子ジュニアのトップでゴールを切る村上裕二郎＝8日、内子町平岡

村上功（男子U23 松山大）2位

大蔵（女子U17 松山城南高）V

内子・最終日

自転車の第25回シクロクロス全日本選手権最終日は8日、内子町平岡の豊秋河原の特設コースで男女エリートなど9カテゴリーでレースを行い、愛媛勢は男子ジュニア（15キロ）の村上裕二郎（松山工高）が39分54秒で制した。連覇を狙った男子U23（23歳以下、20キロ）の村上功太郎（松山大）は53分8秒で準優勝だった。

女子U17の大蔵こころ（松山城南高）は9・2キロを27分37秒で走り頂点に輝いた。

地元で「一番のレース」　村上裕競り勝つ

「地元の声援が力になった。頭を使いながら最後まで戦い抜けた。人生で一番のレース」。2位と2秒差というデッドヒートを繰り広げ、村上裕二郎（松山工高）が男子ジュニアの頂に立った。

練習などで疲労が蓄積し、レース前のコンディションは決して良くなかった。「ペースは相手に任して、出られるところで出よう」と臨んだが、終盤まで小学時代からのライバル松本一成（長野）より前には行けなかった。

ラスト1周。ゴール前最後の斜面でトップに躍り出ると「そこから一成を前に出さないように注意した」。自転車を担いで階段を上り切った時点では再び抜かれたが、最後の力を振り絞りスプリント合戦を制した。

そんな手に汗握る接戦のさなか、フィニッシュ直前で村上は後方を確認。「以前、ガッツポーズをしたら差されてしまった。今回どうしてもしたかったので、一応後ろを確認しました」。本調子ではない中で勝ち取った日本一の栄冠。ゴールシーンすら自ら演出してしまう姿に、早くも王者の風格が漂っている。（山内拓郎）

スタートのミス響いた

松山大・村上功太郎（男子U23で連覇逃す）「ロードは優勝した選手の方が速いため、1周目から離れずに行けるかが勝負だった。スタートミスも響いた。地元開催のプレッシャーはあったが、自分の走りは最大限できた」

力強い走り雪辱できた

松山城南高・大蔵こころ（女子U17で初優勝）「昨年は大差をつけられ3人中の3位だったので、今回悔しさを晴らせてうれしい。今年長野から愛媛に来て、体力面でかなりレベルアップし、力強い走りができた」